



高浜小だより



発行日
令和4年3月24日
高浜町立高浜小学校

「体験したこと」は、身につく

昼間の暖かさは、まさに春の訪れを感じさせます。この暖かさに誘われて、沈丁花のつぼみもはじけ、良い香りを振りまく季節となりました。

本日、令和3年度の「修了式」を迎えました。終業は、単純に授業を終えることを意味し、1, 2学期の最終日に「終業式」を行います。しかし、修了とは、決められた授業（学習）に取り組んだことを意味しています。

さて、「聞いたことは忘れる、見たことは覚える、やったことは分かる」と言われます。中国の古典からの引用ですが、体験活動や実践できる力を養うことの大切さを言い表した言葉です。高浜小学校では、この1年、それぞれの学年で「ふるさと学習」をはじめとして、地域と連携・協力した活動に取り組んできました。先日、11日には「ムラサキウニ」を活用した商品の発表会を行いました。また、各学年においても、1年間の学習の成果を下学年に伝え、校外で発表する機会（福井大学ラウンドテーブル）を持つなど、発表・発信を行いました。この学習体験を通して、子どもたちは、自ら進んで課題を発見すると共に、その解決のために協力して学ぶことの大切さを実感



卒業式

したと思います。そして、表現力をはじめ、これからの社会を生き抜くための力を大きく伸ばすことができました。来年度も地域の方からのご協力を得ながら、高浜小学校オリジナルの「ふるさと学習」を継続していきたいと考えています。

「バトン」をつなぐ

3月は、リレーのバトンゾーンととらえることができます。高浜小学校のリーダーとして、6年生は1年間、行事や委員会など、多くの活動の先頭に立って、1～5年生を引っ張ってきました。バトンは重く、時には走りにくい時があったかもしれませんが、見事に「高小バトン」をつなぎました。大変立派でした。そして、4月からは、いよいよ5年生がそのバトンを引き継ぎます。また、1～4年生もそれぞれ進級し、学年のバトンを引き継ぎます。

このリレーで大切なこと、それは、「感謝と信頼」ではないでしょうか。次の走者は、前の走者が走り続けたことに感謝する。前の走者は、次の走者に対して、信頼の気持ちを持ってバトンを引き継ぎ、応援する。

5年生をはじめ進級する1～4年生は、この「感謝と信頼」の気持ちを持って、新年度に臨んでほしいと思います。4月からの「新しい高浜小学校」に大いに期待しています。

最後になりましたが、この1年間、保護者の皆様、地域の皆様には、高浜小学校の教育活動に対しまして、格別のご支援・ご協力をいただきました。誠にありがとうございました。来年度もよろしくお願いいたします。

学習活動（行事）で振り返る3学期



1月20日、4年生が「高齢者疑似体験（シニア体験）」を行いました。高齢者の視点で身の回りを見ることで、改めて「相手の立場に立って考えることの大切さ」を学ぶことができました。



2月25日、3年生が社会の出前授業で、高浜の移り変わりについて、地図や学校の写真から学びました。海岸線の地形変化、土地利用や建物・施設の変化など、多くの発見や学びがありました。



3月1日、学年別なわとび集会で、1年生は、「持久跳び」と2種目の「技跳び」に挑戦しました。繰り返し練習を続け、持久力が大きく伸びると共に、新しい技も習得することができました。



3月3日、2年生は、「卒業を祝う会」で、感謝の気持ちを込めて、花束と創作ダンスを6年生にプレゼントしました。手話を取り入れたダンスに、心もあたたくくなりました。



3月8日、5年生が「命の学習」を行いました。講師の佐野裕子先生からは、生命誕生について話を聞きました。学習を通して、世界に唯一の命を、大切にしようという思いが一層高まりました。



3月11日、6年生が「UNIKAR A」の商品発表会を行いました。1年をかけて取り組んできたことが結実し、喜びと達成感でいっぱいになりました。